

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・下田港史上初！クルーズ客船入港（詳報）
- ・景色と調和した清水港に感動
- ・清水港フラワーフェスタに出展
- ・帆船「日本丸」入港
- ・御前崎港を海上から視察
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑥(全7回)
- ・シリーズ「モノから見える清水港」②(全5回)

下田港史上初！クルーズ客船入港（詳報）

前回に続き、「下田港史上初！クルーズ客船入港」について詳細を紹介します。

4月4日(月)、フランス客船会社ボナン社が所有する「ル・ソレアル」が下田港史上初のクルーズ客船として入港しました。

当日は、低気圧の影響で外洋が荒れる中、早朝7時に入港。沖合最大波高約2.6mの荒天の中、防波堤によって静穏性が保たれた港内で停泊し、搭載のテンドーボート※を利用して外ヶ岡岸壁に乗客を移送しました。上陸した乗客は、伊豆市の「わさび田」・「浄蓮の滝」等を観光するオプションツアーで下田周辺の名所巡りを楽しみました。

上陸の際には、下田太鼓の演奏やフランス国旗を振りながら多くの地元関係者が乗客を迎え、乗客も太鼓の演奏に興味を持って聴きながら写真を撮る姿が窺えました。

その後は、楠山俊介下田市長、勝俣孝明衆議院議員、森竹治郎静岡県議会議員、土屋優行静岡県副知事、守屋正平中部地方整備局副局長など多くの関係者が「ル・ソレアル」を訪問し、船長・機関長・ホテルマネージャーへ歓迎の意を伝える式典が開催されました。



《下田港内に停泊している様子》



《お見送りの様子》

船長からは、下田港客船誘致協議会の歓迎に感謝するとともに、「今日の様な悪天候の中、防波堤のおかげで港内に停泊し、乗客をテンドーボートで上陸させることが出来た。防波堤がなければ、乗客を上陸させる術がなく、その場合は、下田港への寄港を見送る可能性もあった」と、防波堤整備を評価して下さるうれしい意見をいただきました。

夕方6時、「ル・ソレアル」は、ツアーや市内散策を終えた乗客を乗せ、観光遊覧船「サスケハナ」や大漁旗を掲げた漁船に見送られながら次の目的地の新宮港（和歌山県）に向けて出港しました。

※【テンドーボート】とは、クルーズなどで使われる大型船に搭載された小さな補助船

景色と調和した清水港に感動

6月3日(金)、東京都の明治大学付属明治中学校2年生(165名)が、清水港の歴史や特徴、日本経済の屋台骨となる産業構造を現場で体感する為に清水港を訪れました。

当日は、「バイプロムナード」に乗船し、海上からシンボルカラーで彩られたガントリークレーンなどを見学したあと、マリンビル内で防波堤の機能を体感する模型による実演を行い、最後に清水コンテナターミナル(株)の協力で袖師コンテナターミナルの荷役や、ターミナル内の諸施設の稼働状況などを見学し、「貿易の玄関口」を間近で体験しました。

生徒からは、「景観を守ろうとする活動がすごいと思った」「クレーンのアクアブルーは本当にきれいでした」などの感想が聞かれました。



《コンテナターミナル見学の様子》

清水港フラワーフェスタに出展

6 月 5 日(日)、清水マリンパークにおいて「清水港フラワーフェスタ 2016」が開催されました。

このフェアは、清水港開港 100 周年を機に「花と緑の海洋文化都市（ガーデンポートシティ）」が提唱され、その一環として清水港周辺の“賑わいの場”を創出し、地域経済の振興並びに文化の向上を図ることを目的とし毎年開催されてきています。今年はあいにくの空模様でしたが、ハーラウナープアマイカライニアーパーナ静岡校のみなさんによるフラダンス、さらに花のチャリティーオークションが行われました。

当事務所も港の紹介ブースを出展し、中部管内“みなとオアシス”の紹介、御前崎港及び大井川港のイベント案内、防波堤の機能を体感する模型による実演やパンフレット配布などを行いました。



《防波堤模型実験説明の様子》

帆船「日本丸」入港

4 月 27 日(水)、海の貴婦人といわれる帆船「日本丸」が清水港日の出埠頭に入港しました。今回は同日に清水区で開催された日中韓 3 カ国環境大臣の全体会合にあわせての入港であり、清水港入港通算 20 回目の節目として記念すべき入港となりました。

また同埠頭では、地元関係者による歓迎式典が行われ、前環境大臣である望月義夫衆議院議員からは、20 回目の入港に対する感謝と共に引き続き清水港への入港に期待する旨の挨拶を戴きました。その日の午後には、丸川珠代環境大臣をはじめ 3 カ国の環境大臣も日本丸を訪れ、田辺信宏静岡市長、望月薫清水港客船誘致委員長と共に船内を視察されました。

4 月 29 日(金)には、船の実習生によるセイルドリル※訓練が行われ、帆を広げた美しい「日本丸」の姿に大勢の見物者が魅了されました。また、翌日の 4 月 30 日(土)には船内が一般公開され、約 3,000 人が興味津々に見学しました。5 月 1 日(日)までの入港期間、約 39,000 人の方が日の出埠頭に訪れ、帆船「日本丸」との触れ合いを楽しみました。

※【セイルドリル】とは、マストに帆を広げる訓練



《歓迎式典の様子》

御前崎港を海上から視察

4 月 25 日(月)、御前崎港整備促進期成同盟会※事務担当者(11 名)が御前崎港内の視察に訪れました。

参加者は、当所港湾業務艇に乗船し、海上から港湾施設(防波堤、岸壁)、荷役施設(ガントリークレーン等)の構造や機能の説明を受けました。普段は港を見る機会が少ない参加者にとっては、御前崎港の状況や特徴、機能を知る良い機会になったと思います。

また、5 月 26 日(木)には、今年度御前崎市内の小学校に赴任された新任の先生方(9 名)が研修の一環として、御前崎港内の視察に訪れました。参加者の中には、御前崎港を初めて見られた方もおり、また港内視察では、自動車運搬船の出港時と重なったため自動車運搬船の勇姿を写真に収められた方もいました。

今回、港湾施設の整備状況の話にとどまらず、海の環境の話(藻場、河川からの流入ごみ等)をさせていただきました。これからも海、港に興味を持っていただき、子供たちに伝えていただければと思います。

※【御前崎港整備促進期成同盟会】とは、静岡県中西部の産業・物流拠点として御前崎港の整備促進を図るために立ち上げられた組織



《新任先生方の港内視察会(集合写真)》

シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑥(全7回)

今回は、イタリアのカジュアルクルーズ船「コスタ・ビクトリア」をご紹介します。

「コスタ・ビクトリア」(全長252.91メートル:75,166トン)は、1996年ドイツの造船所で造られました。「コスタ・ビクトリア」クラス1番船として建造中に、造船所の倒産に見舞われ、別の造船所で舳装が行われました。2番船として建造中だった「コスタ・オリンピア」はノルウェー・ラインに売却され「ノルウェー・スカイ」(1999年)として就航。その同クラス船として「ノルウェー・サン」(2001年)が就航しています。「コスタ・ビクトリア」はその後2004年、海側客室とスイートルームのバルコニーの増設が行われました。

イタリアのコスタ・クルーズ社のクルーズ船は、白い船体に黄色のファンネル、青い「C」のロゴが特徴。1924年、貨物船を運用する海運会社として設立され、1948年3月よりイタリアとアルゼンチンを結ぶ最初の客船として「アンナC」を就航し、以後イタリアと南米各地を結ぶ客船の航路を拡充していきます。1959年より地中海でのクルーズ船の運用を始め、1986年にクルーズ会社になります。現在はカーニバル・コーポレーションの一員として15隻のクルーズ船を運用。2012年よりアジアエリアにクルーズ船を配船し始め、今年中に4隻に拡大予定です。また日本支社も設立されます。「コスタ・ビクトリア」も「コスタ・アトランチカ」「コスタ・フォーチュナ」などと共にアジアエリアで運用されています。日本ではGWや夏休みを中心に、横浜から韓国方面や博多、金沢から韓国方面へ1週間程度ファミリー向けのカジュアルなクルーズを展開しています。

一般的な外国籍のクルーズ船の場合、船内の公用語は英語になっていますので、イタリア語が出来なくても大丈夫です。レセプションやインフォメーションなどを担当するクルーは、複数の言語を話せる人が多く、胸ポケット付近に話せる国のバッジを付けています。日本からチャータークルーズで乗船する場合は、日本語の話せるクルーや添乗員が多く乗船するので、ほとんど問題は無いと思います。

コスタ・クルーズの船は外観はシンプルですが、船内はイタリア船らしく、明るく、洗練されています。特徴的な船首付近の四角いガラス窓の内側は、デッキから4層吹き抜けのホール「コンコルドプラザ」になっていて、コンサートやダンスパーティなどに使われています。また船尾には2層吹き抜けの「フェスティバル劇場」があり、ライブやマジックショーなどが連日行われています。クルーズ船では、メインダイニングの収容人数に限りがあり、多くの船ではディナーは1st、2ndの2回に分けられています。シアターでのショーは、2回のディナータイムと、2回目のディナーの後の時間の3回公演される場合が多いです。

ファミリー向けのクルーズ船らしく、無料の子供向けの「スクオク(SQUOK)クラブ」というプログラムがあります。映画鑑賞やダンスなど様々なイベントが朝、昼、夜の3つの時間帯で組まれていて、専門のクルーにより子供たちがクルーズ中、退屈しないで楽しめるようになっています。フォーマルデイの夕食の際も、子供向けのパーティーが同時進行で行われるので、大人同士の落ち着いた食事やショーなどを鑑賞出来るように配慮されています。またオレンジ色を基調とした温かみのある客室にも、ファミリー向けに2つの客室を内側の扉でつないだ「コネクティングルーム」を多く設定しています。3世代家族や2家族でクルーズに参加する場合には



お勧めです。イタリアのカジュアル船でのクルーズは、肩肘張らずに楽しむのが一番です。フォーマルデイでもスーツやドレスで大丈夫です。ディナータイムには恒例のクルーのダンスタイムがあったり、とにかく、陽気なイタリアンテイストを気軽に体感できる船です。

次回は「ぱしふいっくびーなす」をご紹介します。

《全長252.91m 総トン数75,166トン、乗客定員2,394名》

このシリーズは県内で知る人が少ない「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載6回目です。

山口博史(やまぐちひろふみ)昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012年より14年までクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

シリーズ「モノから見える清水港」②(全5回)

『茶箱と蘭字』

明治維新に伴う日本の開国以前に中国ではオランダやイギリスとの貿易が行われていました。日本のラベルには「JAPAN TEA」と英語が書かれていましたが、中国では先にオランダとの貿易がありましたので、「オランダ語」という意味の「蘭字」がそのまま日本に持ち込まれて、茶箱ラベルは「蘭字」と呼ばれるようになりました。江戸時代から静岡・清水の山間部は緑茶生産で全国的に知られていましたが、開国後に緑茶は生糸に次ぐ輸出品になっていきました。当時から足久保地域で摘まれた茶葉は安倍川を降り、現在の浅間神社の南辺り（番町・茶町周辺）に集積されて製茶されました。その後に清水港まで運ばれた茶葉は横浜まで回漕して海外へと送られていきました。ところが、明治 22 年（1889）に東海道線が開通すると、流通は陸送が主になり清水港扱いの荷は激減してしまいました。こうした事態を憂慮した人達により清水港でも直輸出が可能になるよう政府への働きかけが行われ、輸出港の指定後に明治 39 年から輸出が始まりました。それとともに静岡の茶町周辺には横浜から外国人商会が移ってきました。また、江戸時代の浮世絵の技法を伝承した木版画の技術による「蘭字」は静岡でも作られるようになりました。近年では、この蘭字の編年やどの蘭字が静岡で制作されたものなのか、など具体的な蘭字の歴史が判明してきました。また、昨年、東京の八重洲に所在する「株式会社エム・シー・フーズ」から、戦後に静岡で使われたオフセット印刷の蘭字が 300 枚以上発見されて、フェルケール博物館へ寄贈されました。実は、この会社は静岡市番町に所在した「日本紅茶株式会社」を吸収合併して設立しており、その折に印刷蘭字が東京へと運ばれていました。蘭字と呼ばれた茶箱ラベルは昭和時代に入ると現在のようなオフセット印刷となり、昭和 30 年代まで「蘭字」と呼ばれて輸出茶箱に貼られていました。戦後の輸出先は北アメリカ大陸から中東やアフリカへと変わっていました。そのため、蘭字もエキゾチックなアラビア調のデザインに変わっていきました。不思議な話ですが、木版蘭字に比べて印刷の蘭字は現在ではあまり残ってはいません。戦後の蘭字についてはあまり注目されてきませんでしたので、使用されなくなると廃棄されてしまったものが多かった

のでしょう。

フェルケール博物館では、農研機構野菜茶業研究所より寄託を受けた明治から戦後の輸出用茶箱の実物資料とともに蘭字を紹介しています。これらの蘭字の印刷技術は昭和時代には、缶詰ラベルの印刷へと応用されていきました。日本茶の歴史だけでなく、デザイン史としても貴重な展示内容となっています。



《第 2 展示室の蘭字と茶箱コーナー》

※ このシリーズは「モノから見える清水港」について寄稿によるもので、今回は連載 2 回目です。

榎原 靖弘（ちんばらやすひろ） フェルケール博物館 学芸部長 1962 年 藤枝市生まれ

お知らせ

● 踊夏祭（平成 28 年 7 月 17 日開催）

● 御前崎みなと夏まつり（平成 28 年 8 月 6 日開催）

● 清水港を拠点に海洋に関する研究、人材育成を応援する民間組織「海の未来静岡友の会」HP 開設中

<http://www.umi-mirai.jp/>

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなど

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

